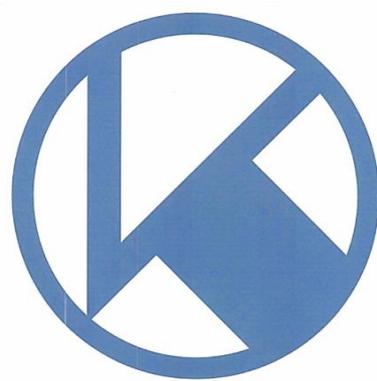


2023年度  
郡山健康科学専門学校  
講義概要



理学療法学科  
4年生

学校法人こおりやま東都学園

# 理学療法学科 履修一覧

1年		
教育内容	科目名	国家試験該当科目
	法学	●
	医療倫理	●
	社会福祉学	●
	統計学	●
科学的思考の基礎 人間と生活 社会の利害	物理学	●
	化学	●
	情報リテラシー	●
	コミュニケーション論	●
	保健体育	●
	外国語	●
	解剖学 I	●
	解剖学 II	●
	生理学 I	●
	生理学実習	●
	運動学 I	●
	人体の構造と機能	●
疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	公衆衛生学	●
	リハビリテーション医学	●
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	医療入門	●
	基礎理学療法学	●
	理学療法実習 I	●
	運動療法実習	●

2年		
教育内容	科目名	国家試験該当科目
疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	解剖学実習	●
	生理学 II	●
	運動学 II	●
	人間発達学	●
科学的思考の基礎 人間と生活 社会の利害	病理学	●
	臨床心理学	●
	内科学	●
	整形外科科学	●
	神経内科学	●
	精神医学	●
	小児科学	●
	老年学	●
	薬理学	●
	理学療法学特論	●
	理学療法実習 II	●
	検査・測定実習	●
	義肢・装具学	●
	日常生活技術論	●
	神経系理学療法学 I	●
	生活環境論	●
	見学実習	●

3年		
教育内容	科目名	国家試験該当科目
疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	内部障害学	●
	疾病と障害の成り立ち	●
	看護・介護概論	
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	作業療法概論	
	言語療法概論	●
	理学療法実習 III	●
	医療英会話	
	理学療法管理学	●
	理学療法評価学	●
	義肢装具学実習	●
	物理療法学	●
	神経系理学療法学 II	●
	筋骨格系理学療法学	●
	小児発達系理学療法学	●
	呼吸・循環器系理学療法学	●
	日常生活技術実習	●
	スポーツ理学療法学	●
	内部障害理学療法学	●
	地域理学療法学	●
	臨床実習 I	
	在宅リハビリテーション実習	

4年		
教育内容	科目名	国家試験該当科目
基礎理学療法学	理学療法研究法	●
	理学療法マナー・メント論	●
	総合演習	●
臨床実習	臨床実習 II	

## 專門分野

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
理学療法研究法(1/2)		学科教員			川崎
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	4	前期	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
グループ学習・演習を通して臨床実習に必要な基礎知識および技能を修得する。専門基礎分野、基礎3科目(解剖学・生理学・運動学)の基礎学力向上を図る。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①臨床実習に向けた基礎学力の充実を図る。 ②各試験にて70%以上の正答率を獲得する。				専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 態度・志向性 問題解決力	
【履修上の注意】		特になし			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	解剖生理学—植物機能(1)	循環器系の解剖・生理を復習する			グループ
2	解剖生理学—植物機能(2)	循環器系の解剖・生理を復習する			グループ
3	解剖生理学—植物機能(3)	消化器系、泌尿器系の解剖・生理を復習する			グループ
4	解剖生理学—植物機能(4)	消化器系、泌尿器系の解剖・生理を復習する			グループ
5	解剖生理学—植物機能(5)	呼吸器系の解剖・生理を復習する			グループ
6	解剖生理学—植物機能(6)	呼吸器系の解剖・生理を復習する			グループ
7	解剖生理学—植物機能(7)	代謝、内分泌系、発生と組織の復習をする			グループ
8	解剖生理学—植物機能(8)	代謝、内分泌系、発生と組織の復習をする			グループ
9	解剖生理学—動物機能(1)	中枢神経の解剖・生理を復習する			グループ
10	解剖生理学—動物機能(2)	中枢神経の解剖・生理を復習する			グループ
11	解剖生理学—動物機能(3)	中枢神経の解剖・生理を復習する			グループ
12	解剖生理学—動物機能(4)	末梢神経の解剖・生理を復習する			グループ
13	解剖生理学—動物機能(5)	末梢神経の解剖・生理を復習する			グループ
14	解剖生理学—動物機能(6)	骨格筋の構造・筋収縮の生理・反射を復習する			グループ
15	解剖生理学—動物機能(7)	感覚受容器、感覚器の構造と機能、伝導路の復習をする			グループ
期末試験	実施しない	評価方法	筆記試験 50% 受講態度 20%	課題の達成度	30%
【教科書】	クエスチョン・バンク 理学療法士 国家試験問題解説2022 共通問題・専門問題				
【参考書】	PT/OT国家試験必修ポイント 専門基礎分野基礎医学 (医歯薬出版)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】					
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
理学療法研究法(2/2)		学科教員			川崎
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	4	前期	30(60)	講義	2
【授業の概要・目的】					
グループ学習・演習を通して臨床実習に必要な基礎知識および技能を修得する。専門基礎分野、基礎3科目(解剖学・生理学・運動学)の基礎学力向上を図る。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①臨床実習に向けた基礎学力の充実を図る。 ②各試験にて70%以上の正答率を獲得する。				専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 態度・志向性 問題解決力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	解剖生理学—動物機能(8)	感覚受容器、感覚器の構造と機能、伝導路の復習をする			グループ
2	運動機能学(1)	骨の構造、関節、靭帯の復習をする			グループ
3	運動機能学(2)	骨の構造、関節、靭帯の復習をする			グループ
4	運動機能学(3)	上下肢の関節、手根管、手部の筋について復習をする			グループ
5	運動機能学(4)	上肢の筋の復習をする			グループ
6	運動機能学(5)	上肢の筋の復習をする			グループ
7	運動機能学(6)	下肢の筋の復習をする			グループ
8	運動機能学(7)	下肢の筋の復習をする			グループ
9	運動機能学(8)	正常歩行について復習をする			グループ
10	理学療法治療学—基本介入手段(1)	運動療法の生理学的作用を理解し、基本的介入手段を実践できる筋力増強運動、他動運動			グループ
11	理学療法治療学—基本介入手段(2)	運動療法の生理学的作用を理解し、基本的介入手段を実践できる関節可動域訓練、伸張訓練			グループ
12	理学療法治療学—基本介入手段(3)	運動療法の生理学的作用を理解し、基本的介入手段を実践できる疾患別運動療法、介入戦略、運動学習			グループ
13	理学療法治療学—基本介入手段(4)	物理療法の使用方法、適応、禁忌等について復習する 温熱療法、低周波療法			グループ
14	理学療法治療学—基本介入手段(5)	日常生活活動と生活環境論について復習する ADL評価、リハ関連機器			グループ
15	理学療法治療学—基本介入手段(6)	補装具療法について復習する KAFO・AFOのチェックアウト			グループ
期末試験	実施しない	評価方法	受講態度 筆記試験	20% 50%	課題の達成度 30%
【教科書】	クエスチョン・バンク 理学療法士 国家試験問題解説2022 共通問題・専門問題				
【参考書】	PT/OT国家試験必修ポイント 専門基礎分野基礎医学 (医歯薬出版)				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】					
【本講義についての質問先】	担当教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
理学療法マネジメント論 ※ 実務経験のある教員の授業科目		十文字 雄一			十文字
		病院(理学療法士)10年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	4	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
事例を検証することで新たな考え方を模索します。生活機能をICFの観点で整理し患者像を把握し、問題点抽出・目標設定を行います。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①選択した事例から患者像把握、問題点抽出、目標設定できる。 ②ボトムアップ・トップダウン双方の考えによる思考の違いを理解し説明できる。 ③現状から目標に向けての道筋を立案できる。				知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 態度・志向性	
【履修上の注意】		特になし			
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	オリエンテーション	授業の概要, すすめ方について理解する.			個人・グループ
2	事例検討①	対象事例を振り返ることで、課題の達成を妨げている要因や原因を明らかにする方法を検討し、説明する.			個人・グループ
3	事例検討②	患者(利用者)の豊かな生活、継続的な支援を実現するには何が必要なのかを考え、説明する.			個人・グループ
4	事例検討③	関係機関・専門職種との連携・協力・協働関係の築きに視点を向け、多職種連携について理解する.			個人・グループ
5	事例検討④	理学療法の課題を発見し、地域のネットワークや社会資源の構築の方法を検討し、説明する.			個人・グループ
6	事例検討⑤	当事者中心の医療を実践するために、必要な情報の収集・活用方法について検討し、説明する.			個人・グループ
7	事例発表会	まとめた事例についてグループごとに発表する.			個人・グループ
8	総合臨床実習に向けて①	治療プログラム立案について学ぶ. 必要な情報収集			個人・グループ
9	総合臨床実習に向けて②	治療プログラム立案について学ぶ. 必要な情報収集			個人・グループ
10	総合臨床実習に向けて③	治療プログラム立案について学ぶ. 必要な情報収集			個人・グループ
11	疾患別マネジメント	疾患別のマネジメントについて学ぶ.			個人・グループ
12	病期別マネジメント	病期別のマネジメントについて学ぶ.			個人・グループ
13	事例の振り返り①	治療プログラム立案に基づき事例を振り返る.			個人・グループ
14	事例の振り返り②	治療プログラム立案に基づき事例を振り返る.			個人・グループ
15	まとめ	ICFに基づいた患者像の捉え方について再考する.			個人・グループ
期末試験	実施しない	評価方法	受講態度 課題の達成度	50% 50%	
【教科書】	特に指定なし.				
【参考書】	講義の中で適宜紹介します.				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		3年次までに学んできたことを復習して講義に臨んでください.			
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
総合演習(1/5)		学科教員			十文字
		【対象学科】	【学年】	【開講時期】	
理学療法学科	4	後期	75(150)	演習	5
【授業の概要・目的】					
グループ学習を通し、理学療法における知識と技術、及び臨床的思考確立の集大成とする。本講義には卒業試験が含まれる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①理学療法における基礎知識・技術の修得を図る。 ②理学療法における臨床思考を確立する。 ③国家試験取得に向けて幅広い分野の知識修得・理解を目指す				知識・理解 コミュニケーションスキル 情報活用能力 専門職としてのスキル・意識 問題解決力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	基礎医学		解剖学の知識の整理		グループ
2	基礎医学		解剖学の知識の整理		グループ
3	基礎医学		解剖学の知識の整理		グループ
4	基礎医学		解剖学の知識の整理		グループ
5	基礎医学		解剖学の知識の整理		グループ
6	基礎医学		運動学の知識の整理		グループ
7	基礎医学		運動学の知識の整理		グループ
8	基礎医学		運動学の知識の整理		グループ
9	基礎医学		運動学の知識の整理		グループ
10	基礎医学		運動学の知識の整理		グループ
11	基礎医学		生理学の知識の整理		グループ
12	基礎医学		生理学の知識の整理		グループ
13	基礎医学		生理学の知識の整理		グループ
14	基礎医学		生理学の知識の整理		グループ
15	小テスト		基礎医学に関する理解度を確認する。		グループ
期末試験	実施しない		評価方法	筆記試験 (卒業試験)	100%
【教科書】	各領域における1~3年次科目の教科書				
【参考書】	各領域における1~3年次科目の教科書				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】					
【本講義についての質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
総合演習(2/5)		学科教員			十文字
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	4	後期	75(150)	演習	5
【授業の概要・目的】					
グループ学習を通し、理学療法における知識と技術、及び臨床的思考確立の集大成とする。本講義には卒業試験が含まれる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①理学療法における基礎知識・技術の修得を図る。 ②理学療法における臨床思考を確立する。 ③国家試験取得に向けて幅広い分野の知識修得・理解を目指す				知識・理解 コミュニケーションスキル 情報活用能力 専門職としてのスキル・意識 問題解決力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	臨床医学		病理学の知識の整理		グループ
2	臨床医学		病理学の知識の整理		グループ
3	臨床医学		内科学の知識の整理		グループ
4	臨床医学		内科学の知識の整理		グループ
5	臨床医学		内科学の知識の整理		グループ
6	臨床医学		整形外科の知識の整理		グループ
7	臨床医学		整形外科の知識の整理		グループ
8	臨床医学		整形外科の知識の整理		グループ
9	臨床医学		神経内科学の知識の整理		グループ
10	臨床医学		神経内科学の知識の整理		グループ
11	臨床医学		神経内科学の知識の整理		グループ
12	臨床医学		神経内科学の知識の整理		グループ
13	臨床医学		臨床心理学の知識の整理		グループ
14	臨床医学		精神医学の知識の整理		グループ
15	小テスト		基礎医学に関する理解度を確認する。		グループ
期末試験	実施しない		評価方法	筆記試験 (卒業試験)	100%
【教科書】	各領域における1~3年次科目の教科書				
【参考書】	各領域における1~3年次科目の教科書				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】					
【本講義についての質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
総合演習(3/5)		学科教員			十文字
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	4	後期	75(150)	演習	5
【授業の概要・目的】					
グループ学習を通し、理学療法における知識と技術、及び臨床的思考確立の集大成とする。本講義には卒業試験が含まれる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①理学療法における基礎知識・技術の修得を図る。 ②理学療法における臨床思考を確立する。 ③国家試験取得に向けて幅広い分野の知識修得・理解を目指す				知識・理解 コミュニケーションスキル 情報活用能力 専門職としてのスキル・意識 問題解決力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	基礎理学療法学	理学療法基礎の知識の整理			グループ
2	基礎理学療法学	理学療法基礎の知識の整理			グループ
3	基礎理学療法学	理学療法基礎の知識の整理			グループ
4	基礎理学療法学	理学療法評価学の知識の整理			グループ
5	基礎理学療法学	理学療法評価学の知識の整理			グループ
6	基礎理学療法学	理学療法評価学の知識の整理			グループ
7	基礎理学療法学	理学療法評価学の知識の整理			グループ
8	基礎理学療法学	理学療法評価学の知識の整理			グループ
9	基礎理学療法学	理学療法評価学の知識の整理			グループ
10	基礎理学療法学	理学療法評価学の知識の整理			グループ
11	基礎理学療法学	理学療法評価学の知識の整理			グループ
12	基礎理学療法学	理学療法評価学の知識の整理			グループ
13	基礎理学療法学	理学療法評価学の知識の整理			グループ
14	基礎理学療法学	理学療法評価学の知識の整理			グループ
15	小テスト	基礎理学療法学に関する理解度を確認する。			グループ
期末試験	卒業試験にて判定する	評価方法	筆記試験 (卒業試験)	100%	
【教科書】	各領域における1~3年次科目の教科書				
【参考書】	各領域における1~3年次科目の教科書				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】					
【本講義についての質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
総合演習(4/5)		学科教員			十文字
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	4	後期	75(150)	演習	5
【授業の概要・目的】					
グループ学習を通し、理学療法における知識と技術、及び臨床的思考確立の集大成とする。本講義には卒業試験が含まれる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①理学療法における基礎知識・技術の修得を図る。 ②理学療法における臨床思考を確立する。 ③国家試験取得に向けて幅広い分野の知識修得・理解を目指す				知識・理解 コミュニケーションスキル 情報活用能力 専門職としてのスキル・意識 問題解決力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	理学療法治療学	骨関節系障害学の知識の整理			グループ
2	理学療法治療学	骨関節系障害学の知識の整理			グループ
3	理学療法治療学	骨関節系障害学の知識の整理			グループ
4	理学療法治療学	骨関節系障害学の知識の整理			グループ
5	理学療法治療学	中枢神経系障害学の知識の整理			グループ
6	理学療法治療学	中枢神経系障害学の知識の整理			グループ
7	理学療法治療学	中枢神経系障害学の知識の整理			グループ
8	理学療法治療学	中枢神経系障害学の知識の整理			グループ
9	理学療法治療学	中枢神経系障害学の知識の整理			グループ
10	理学療法治療学	神経筋障害学の知識の整理			グループ
11	理学療法治療学	神経筋障害学の知識の整理			グループ
12	理学療法治療学	内部障害学の知識の整理			グループ
13	理学療法治療学	内部障害学の知識の整理			グループ
14	理学療法治療学	運動発達障害学の知識の整理			グループ
15	小テスト	理学療法治療学に関する理解度を確認する。			グループ
期末試験	実施しない	評価方法	筆記試験 (卒業試験)	100%	
【教科書】	各領域における1~3年次科目の教科書				
【参考書】	各領域における1~3年次科目の教科書				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】					
【本講義に関しての質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
総合演習(5/5)		学科教員			十文字
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	4	後期	75(150)	演習	5
【授業の概要・目的】					
グループ学習を通し、理学療法における知識と技術、及び臨床的思考確立の集大成とする。本講義には卒業試験が含まれる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①理学療法における基礎知識・技術の修得を図る。 ②理学療法における臨床思考を確立する。 ③国家試験取得に向けて幅広い分野の知識修得・理解を目指す				知識・理解 コミュニケーションスキル 情報活用能力 専門職としてのスキル・意識 問題解決力	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	基礎医学・臨床医学	基礎医学・臨床医学に関する知識の応用			グループ
2	基礎医学・臨床医学	基礎医学・臨床医学に関する知識の応用			グループ
3	基礎医学・臨床医学	基礎医学・臨床医学に関する知識の応用			グループ
4	基礎医学・臨床医学	基礎医学・臨床医学に関する知識の応用			グループ
5	基礎医学・臨床医学	基礎医学・臨床医学に関する知識の応用			グループ
6	基礎医学・臨床医学	基礎医学・臨床医学に関する知識の応用			グループ
7	基礎医学・臨床医学	基礎医学・臨床医学に関する知識の応用			グループ
8	基礎医学・臨床医学	基礎医学・臨床医学に関する知識の応用			グループ
9	基礎理学療法学 理学療法治療学	基礎理学療法学・理学療法治療学に関する知識の応用			グループ
10	基礎理学療法学 理学療法治療学	基礎理学療法学・理学療法治療学に関する知識の応用			グループ
11	基礎理学療法学 理学療法治療学	基礎理学療法学・理学療法治療学に関する知識の応用			グループ
12	基礎理学療法学 理学療法治療学	基礎理学療法学・理学療法治療学に関する知識の応用			グループ
13	基礎理学療法学 理学療法治療学	基礎理学療法学・理学療法治療学に関する知識の応用			グループ
14	基礎理学療法学 理学療法治療学	基礎理学療法学・理学療法治療学に関する知識の応用			グループ
15	小テスト	理学療法治療学に関する理解度を確認する。			グループ
期末試験	実施しない	評価方法	筆記試験 (卒業試験)	100%	
【教科書】	各領域における1～3年次科目の教科書				
【参考書】	各領域における1～3年次科目の教科書				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】					
【本講義に関しての質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床実習Ⅱ(1/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		臨床実習指導者			杉原
		病院・施設勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	4	通年	720	実習	16
【授業の概要・目的】					
実習指導者の指導のもと、学内で修得した知識・技術を活かし、評価から治療、ゴール・プログラムの立案、記録という一連の理学療法を実施する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①理学療法の対象者に対して、基本的な理学療法をある程度の助言・指導のもとに行える ②保健・医療・福祉の各分野における理学療法士の役割と責任を理解し、学生として相応しい態度をとれる ③実習を通して、自己の理学療法士としての自覚を向上させることができる				統合的学習体験 問題解決力 論理的思考力 創造的思考力 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	病院・診療所における実習Ⅰ期  原則として1日の実習時間を8時間として計画する  実習終了後、学内発表会を実施(学科教員)	1)実習指導者の助言・指導のもと、評価・問題点抽出・目標設定・治療プログラムの立案・実施を行い、正確に記録し、他者にわかりやすく伝えることができる  2)理学療法の対象者、指導者、職員、すべての人へ謙虚な心を持ちながら応対し、チームの一員として良い人間関係を築くことができる  3)指導者の助言・指導や文献をもとに、理学療法士としての知識・技術の向上を図ることができる			個別・グループ
2					個別・グループ
3					個別・グループ
4					個別・グループ
5					個別・グループ
6					個別・グループ
7					個別・グループ
8					個別・グループ
9					個別・グループ
10					個別・グループ
11					個別・グループ
12					個別・グループ
13					個別・グループ
14					個別・グループ
15					個別・グループ
期末試験	実施しない	評価方法	実習評価 課題の達成度	60% 20%	発表会の結果 20%
【教科書】	特に指定しない。				
【参考書】	特に指定しない。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】					
【本講義についての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて		

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
臨床実習Ⅱ(2/2) ※ 実務経験のある教員の授業科目		臨床実習指導者			杉原
		病院・施設勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
理学療法学科	4	通年	720	実習	16
【授業の概要・目的】					
実習指導者の指導のもと、学内で修得した知識・技術を活かし、評価から治療、ゴール・プログラムの立案、記録という一連の理学療法を実施する。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①理学療法の対象者に対して、基本的な理学療法をある程度の助言・指導のもとに行える ②保健・医療・福祉の各分野における理学療法士の役割と責任を理解し、学生として相応しい態度をとれる ③実習を通して、自己の理学療法士としての自覚を向上させることができる				統合的学習体験 問題解決力 論理的思考力 創造的思考力 専門職としてのスキル・意識	
【履修上の注意】					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	病院・診療所における実習Ⅱ期  原則として1日の実習時間を8時間として計画する  実習終了後、学内発表会を実施(学科教員)	1)実習指導者の助言・指導のもと、評価・問題点抽出・目標設定・治療プログラムの立案・実施を行い、正確に記録し、他者にわかりやすく伝えることができる  2)理学療法の対象者、指導者、職員、すべての人へ謙虚な心を持ちながら応対し、チームの一員として良い人間関係を築くことができる  3)指導者の助言・指導や文献をもとに、理学療法士としての知識・技術の向上を図ることができる			個別・グループ
2					個別・グループ
3					個別・グループ
4					個別・グループ
5					個別・グループ
6					個別・グループ
7					個別・グループ
8					個別・グループ
9					個別・グループ
10					個別・グループ
11					個別・グループ
12					個別・グループ
13					個別・グループ
14					個別・グループ
15					個別・グループ
期末試験	実施しない	評価方法	実習評価 課題の達成度	60% 20%	発表会の結果 20%
【教科書】	特に指定しない。				
【参考書】	特に指定しない。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】					
【本講義についての質問先】	学科教員	【質問方法】	教員室にて		